

# 令和4年度 芦田川水系河川整備アドバイザー会議

## 議事要旨

日時：令和4年10月13日（木）～令和4年11月1日（火）

### 委員からの意見・指摘事項

#### 【A委員】

##### ■資料\_点検説明資料について

- ・P9の「環境学習の場として」の部分が現状で足りないと感じている。芦田川は県内で唯一のナゴヤサナエの生息域であり、そういった芦田川の特性を活かした自然観察会など開催してもよいと考える。

#### 【B委員】

##### ■資料\_環境整備事業の事業再評価について

- ・河道内樹木の処分について、ペレット化など有効利用を積極的に検討してはどうか。
- ・一般的に河川内の砂や泥の中には珪藻類の骨格を作る珪酸質が多く含まれており、これは水に溶けると珪酸イオンとなり、プランクトンの餌となる。海域のプランクトンは7～8割が珪藻類であるため、そういった意味で河川から海域へ流れ込む土砂は海洋生物の栄養素となっている。
- ・かわまち広場について、運営込みのイベント等実施する考えはないか。利活用の面でPRが必要と考える。

#### 【C委員】

##### ■資料\_環境整備事業の事業再評価について

- ・維持管理面で地元の参加・支援もいただいております、順調と思われる。

#### 【D委員】

##### ■資料\_環境整備事業の事業再評価について

- ・千代田箇所を整備前後の利用状況について、令和2年がコロナ禍の割に多いが、多い理由について背景が把握出来ていれば良い。

#### 【E委員】

##### ■資料\_環境整備事業の事業再評価について

- ・環境学習の場としての利便性、快適性の向上という目標を掲げているが、千代田箇所ではスケボーやバーベキューとしての利用が前面に表現され、生物の視点が不足している。これらの利便性向上も大事ではあるが、生物と触れ合えるような環境学習ができれば、整備のPRにもなると考える。
- ・芦田川はオイカワなどが以前に比べて数が減っており、鵜や鷺の捕食だけでは説明が難しい。一方で、タナゴ類などの回遊しない魚が多く、魚の生息の場としての整備も行い、PRもしっかり行っていくことが重要である。

#### 【F委員】

##### ■資料\_環境整備事業の事業再評価について

Q. モニタリング費用40百万円の詳細は？

A. 令和6年の事業評価に諮るにあたり、利用状況のモニタリングとして令和5年、6年の2ヶ年の利用者数を集計するための費用である。

Q. 便益の算出方法は？

A. 本事業に対していくらまでなら支払うことができるか、というアンケートをとり、それを基に便益を算出する。

**【G委員】**

■資料\_環境整備事業の事業再評価について

Q. モニタリング費用40百万円の詳細は？

A. 令和6年の事業評価に諮るにあたり、利用状況のモニタリングとして令和5年、6年の2ヶ年の利用者数を集計するための費用である。

**【H委員】 【I委員】 【J委員】**

■資料\_環境整備事業の事業再評価について

Q. モニタリング費用40百万円の詳細は？

A. 令和6年の事業評価に諮るにあたり、利用状況のモニタリングとして令和5年、6年の2ヶ年の利用者数を集計するための費用である。

以 上